



2024.8.5

No.367

毎月5日発行 定価1部10円 (組合員の購読料は組合費に含む)
1996年3月4日第三種郵便物認可

MONTHLY

れんごう

北海道

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

和田 英 浩

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

2024平和行動 in 沖縄 「北海道代表団」を派遣

連合が沖縄の6月23日の「慰霊の日」に合わせて実施した「2024平和行動in沖縄」に、連合北海道は6月21日から25日の5日間、13名の北海道代表団を派遣した。

22日には連合北海道の独自行動として伊江島の平和フィールドワークを行い、伊江島観光バスの山城克己代表に、戦前・戦中・戦後の「沖縄の縮図」と言われる伊江島を案内いただいた。山城代表は「戦後は銃剣とブルドーザーで家は次々と破壊され、土地を奪われた。生きるすべを失った住民は、ついに乞食になることを決意し『乞食行進』を本島で始めた。この闘いが沖縄の『島ぐるみ闘争』の原点となった。島民の力で1970年に米軍基地の41%が開放されたが、今なお35%が米軍用地で占められている」と述べ、「平和運動は宗教・政治などにとらわれることなく、戦争は絶対にダメという純粋な気持ちで取り組んでほしい」と語った。

23日午後からは連合本部主催の「2024平和オキナワ集会」へ参加した。第一部は沖縄国際大学の前泊博盛教授より「再考・日米地位協定」と題した基調講演がされた。第二

部式典で主催者挨拶にたった連合本部清水秀行事務局長は、「沖縄に偏った基地の実態や日米地位協定の問題を含めて、地域住民の皆様との十分な意思疎通を図りながら、国や自治体が説明責任を果たすことが極めて重要である」と強調した。

24日は、フィールドワークとして瀬嵩の浜(辺野古、在日米海兵隊・キャンプシュワブ)、嘉数高台(中部戦跡、在日米海兵隊・普天間飛行場)、嘉手納・普天間基地などを見学し、全国の米軍基地の70%以上が集中している現実を目の当たりにした。

参加者は今回の行動で得たものを今後の産別・地域での運動に活かし、連合北海道としても、戦争がもたらした惨劇と実相を忘れることなく、更に「米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本改定」を求め平和運動を推進していく。

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9194>



伊江島フィールドワーク



伊江島フィールドワーク



連合本部主催2024平和オキナワ集会



24日のピースフィールドワーク

